

大崎市民病院 鹿島台分院

令和5年度
臨床指標



臨床指標とは

臨床指標（クリニカル・インディケーター）とは、病院の機能や診療の状況などについて具体的な数値として示したものです。

臨床指標を分析することで課題や改善点を見つけ出し、医療の質の向上に役立てるとともに、患者さんにとって分かりやすい医療情報を提供することを目的としています。

当院では、本指標の分析と公表を通じて、最適な医療を提供できるよう医療の質の向上に取り組んでまいります。

目次

病院全体

■ 1 外来延べ患者数	1
■ 2 入院延べ患者数	1
■ 3 新入院者数	2
■ 4 退院者数	2
■ 5 退院先（転帰先）	3
■ 6 在宅復帰率	3
■ 7 平均在院日数	4
■ 8 病床稼働率	4
■ 9 主病名上位	5
■ 10 入院患者年齢層	5
■ 11 入院患者居住地	6
■ 12 入院目的別	6
■ 13 救急車受入れ件数	7
■ 14 2週間以内退院サマリー作成率	7
■ 15 病院満足度	8

医療安全

■ 16 身体抑制実施率	8
■ 17 転倒転落発生率	9

褥瘡

■ 18 褥瘡推定発生率	9
--------------	---

診療機能

■ 19 栄養指導件数	10
■ 20 薬剤管理指導数	10
■ 21 検査件数	11
■ 22 一般撮影件数	11
■ 23 入院患者1人1日当たりのリハビリ実施単位数	12

地域連携

■ 24 紹介患者数	12
■ 25 レスパイト入院件数	13

在宅医療

■ 26 訪問診療件数	13
■ 27 訪問看護件数	14
■ 28 訪問リハビリテーション件数	14

1 外来延べ患者数

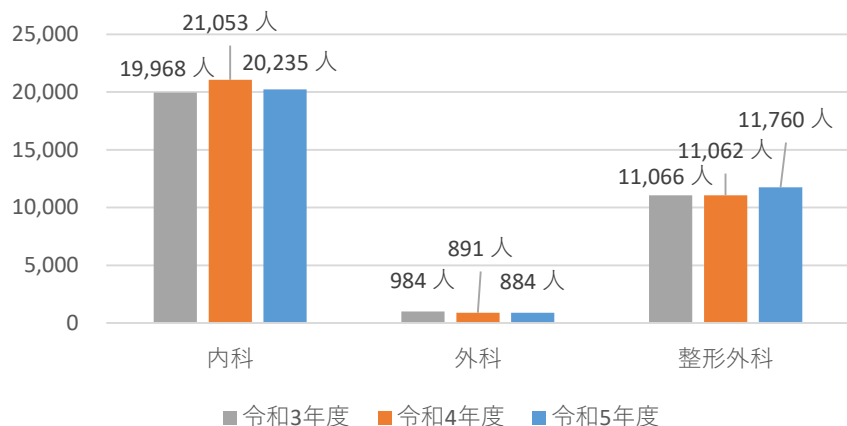
指標の説明

外来を受診された患者さんの数を表しています。

計算式

初診患者数+再診患者数

外来延べ患者数（単位：人）



考察

内科は、この3年間、新型コロナウイルス感染症の流行により、発熱等の患者さんが多く来院され、多少の増減はあるものの一定の患者数で推移しています。整形外科は、令和5年度から近隣医療機関の閉院に伴い、患者数が増加傾向にあります。

2 入院延べ患者数

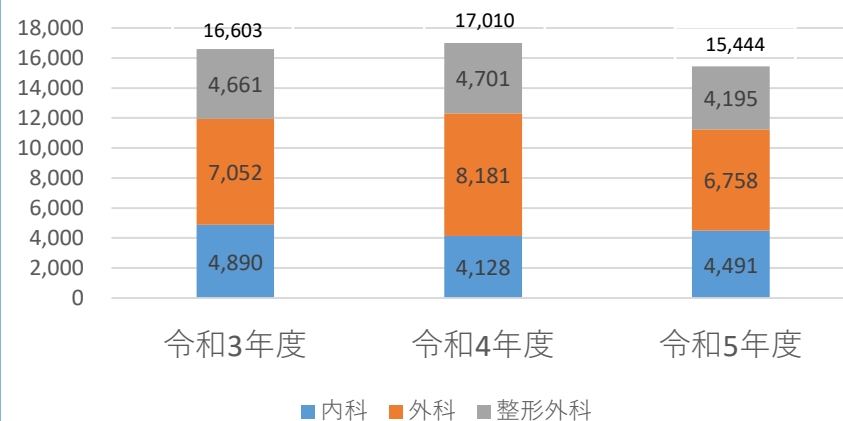
指標の説明

在院患者数（24時現在入院している患者さん）と退院患者数を合計した延べ人数を表しています。

計算式

在院患者数+退院患者数

入院延べ患者数（単位：人）



考察

平成30年度からの段階的な地域包括ケア病床増床に合わせ患者数も伸びてきました。また、令和6年2月からケアミックス型病棟の弾力的運用（58床→40床）を開始しました。しかし、新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生が影響し、患者数は減少しました。

これからも、地域の医療ニーズに合わせ、適切に医療提供できるよう体制の構築に努めてまいります。

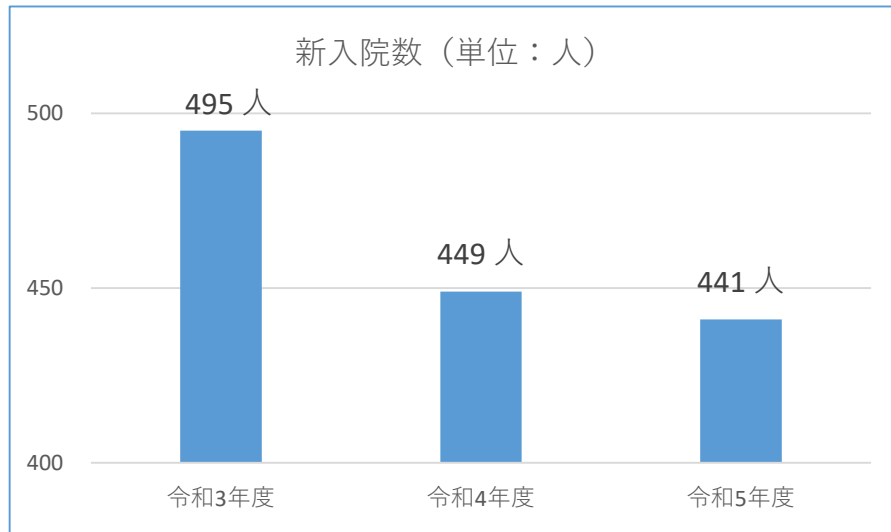
3 新入院者数

指標の説明

新たに入院された患者さんの数を表しています。

計算式

入院ごとにカウントした患者数



考察

地域のかかりつけ医及び本院後方支援病院として、本院との機能分担及び連携を図ってきました。これにより、本院での急性期医療を経て、状態が安定した患者さんのリハビリテーションや在宅復帰を目的とする、当院への転院が増加してきています。

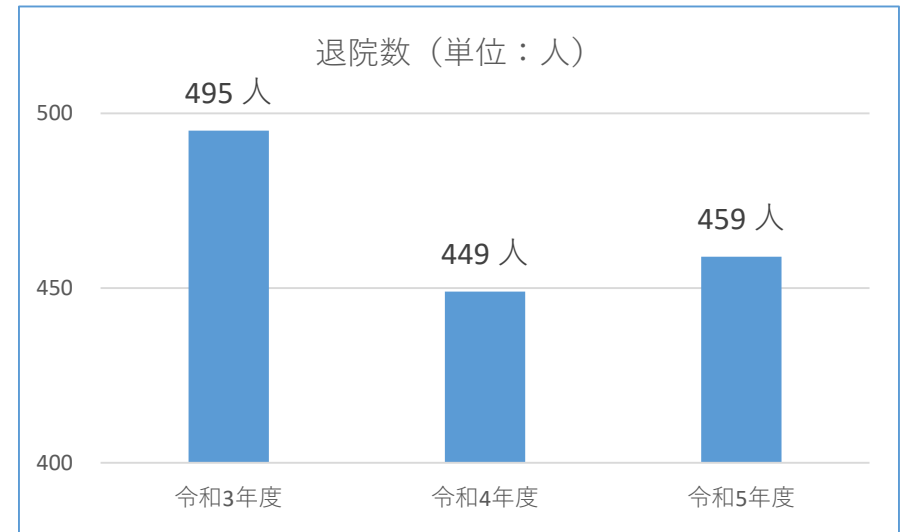
4 退院者数

指標の説明

退院された患者さんの数を表しています。

計算式

退院ごとにカウントした患者数



考察

令和5年度の退院患者数は、令和6年2月からケアミックス型病棟の弾力的運用（58床→40床）開始に伴う退院調整により、新入院者数よりも多い退院者数となっております。

5 退院先（転帰先）

指標の説明

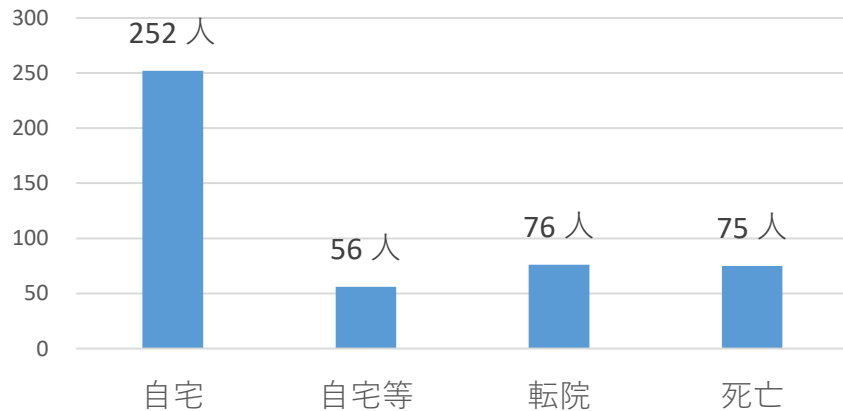
当院に入院された患者さんにおける退院先（転帰先）の患者数を表しています。

*自宅等とは、自宅や居宅系介護施設等をいい、自宅扱いとなります。

計算式

退院先別の入院患者数

退院先（単位：人）



考察

総退院患者の7割近い方が自宅等に退院しております。
令和6年度もご希望の療養先に退院できるように支援いたします。

6 在宅復帰率

指標の説明

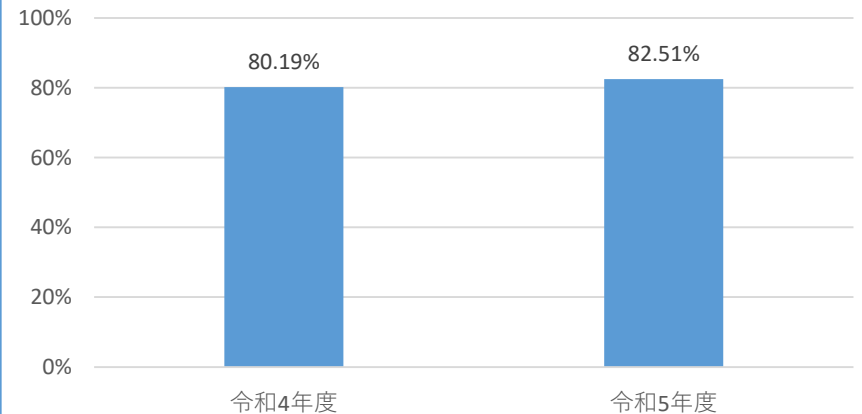
退院患者に占める、自宅等に退院するものの割合を示しています。ここでは自宅だけでなく居宅系介護施設等へ直接退院した場合も在宅復帰されたこととなります。

*地域包括ケア病棟のみの在宅復帰率となります（療養病棟は含みません）。

計算式

退院先が「自宅等」の患者数÷退院患者数×100
※ただし、死亡退院、再入院の患者は分子分母から除く

在宅復帰率（単位：％）



考察

入院日から退院後の生活について希望や要望を伺い、不安なく退院できるよう支援しております。

令和6年度も引き続き支援してまいります。

7 平均在院日数

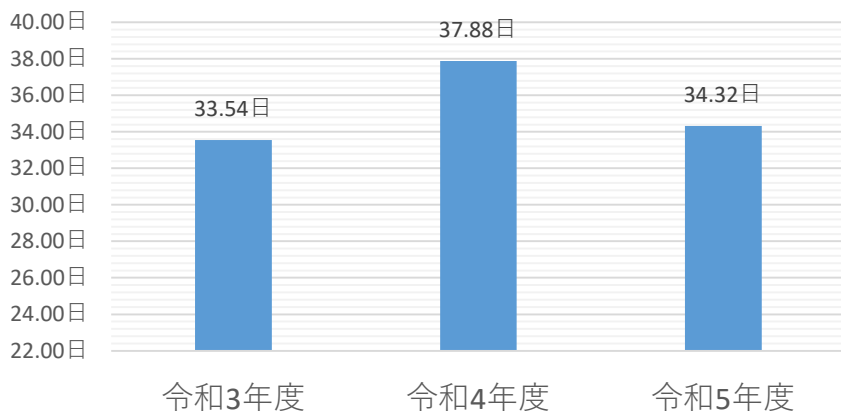
指標の説明

患者さんが入院してから退院するまでの日数を平均して算出したものです。平均在院日数は、病棟の回転率や入院診療の効率性を示す指標です。

計算式

在院患者延べ数 ÷ (新入院患者数 + 退院患者数) × 1/2

平均在院日数 (単位: 日)



考察

地域包括ケア病棟と療養病棟の2病棟による平均在院日数を表しています。令和6年2月からケアミックス型病棟の弾力的運用(58床→40床)を開始したことにより、令和4年度の平均在院日数からは3日以上も短縮となりました。

地域包括ケア病床は60日まで入院が可能となっておりますので、今後も、その期間の中で、適切な医療とリハビリテーションの提供により、在宅復帰を目指します。

8 病床稼働率

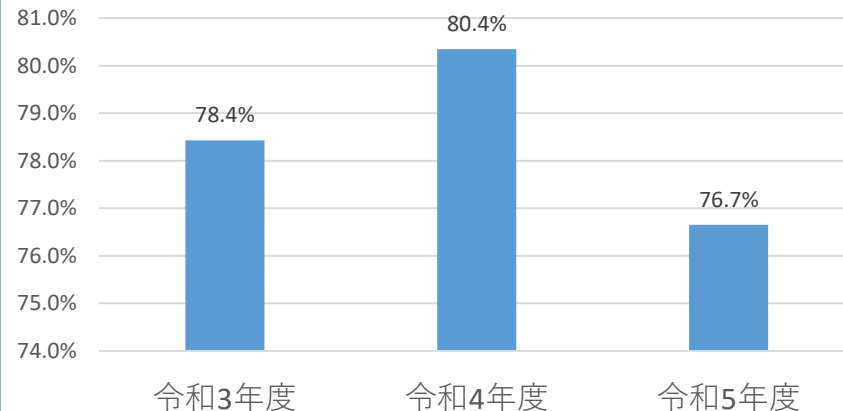
指標の説明

病床がどの程度効率的に稼働しているかを示す割合です。100%に近いほど空床がない状態で病床が利用されていることになります。当院は80%を目標にしています。

計算式

(延べ入院患者数 ÷ 稼働日数 × 稼働病床数) × 100

病床稼働率 (単位: %)



考察

令和5年度の病床稼働率は、令和6年2月からケアミックス型病棟の弾力的運用(58床→40床)開始に伴う退院調整により、令和4年度からは減少しました。

令和6年度からは稼働病床40床となりますが、地域のかかりつけ医として、また、本院の後方支援病院として積極的な受け入れを継続してまいります。

9 主病名上位

指標の説明

当院に入院された患者さんにおける主な疾病について、症例数で上位10種類を表しています。
(合併症や複数の治療の場合は、最も治療を要した重い疾病をとりあげています。)

計算式

過去3か年の上位疾病症例数

	令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	症例名	症例数	疾病名	症例数	疾病名	症例数
1位	誤嚥性肺炎	57	大腿骨の骨折	53	大腿骨の骨折	49
2位	大腿骨の骨折	52	誤嚥性肺炎	46	誤嚥性肺炎	47
3位	腰椎・骨盤・恥骨・座骨等の骨折	35	腰椎・骨盤・恥骨・座骨等の骨折	36	腰椎・骨盤・恥骨・座骨等の骨折	26
4位	心不全	29	脳梗塞	26	心原性脳塞栓症	26
5位	脳梗塞	28	尿路感染症	18	うっ血性心不全	16
6位	肺癌	14	肺炎・気管支肺炎	16	肘部・手根管症候群	15
7位	胸椎・肋骨の骨折	13	心不全	15	尿路感染症	13
8位	尿路感染症	10	胃癌	12	腰部脊柱管狭窄症	12
9位	腰部脊柱管狭窄症	10	腰部脊柱管狭窄症	10	胸椎圧迫骨折	12
10位	肺炎・気管支肺炎	10	膝・頸骨・腓骨骨折	10	脱水症	11

考察

直近3年では、大腿骨の骨折・誤嚥性肺炎が上位となっております。また、内科領域疾患では、心不全・脳梗塞・尿路感染症等の入院が多く、整形外科領域疾患では、胸腰椎・骨盤骨折等の疾患も多く入院していました。

10 入院患者年齢層

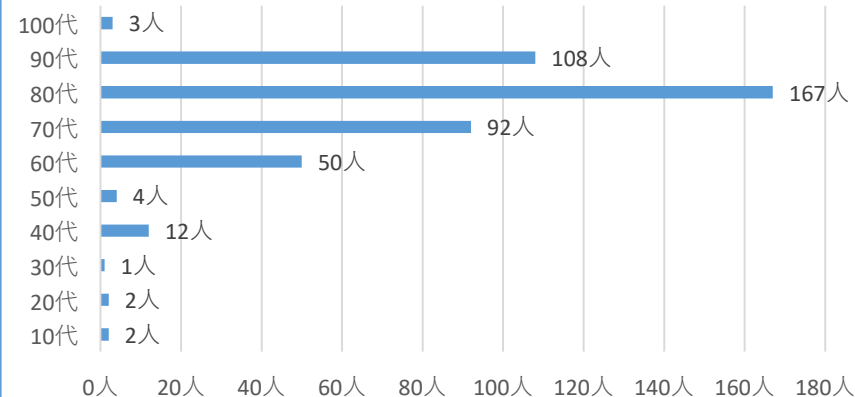
指標の説明

当院に入院された患者さんにおける年代別の患者数を表しています。

計算式

年代別入院患者数

年代別入院患者数（単位：人）



考察

80代の入院が37%と最も多く、次いで90代の入院が24%、70代の入院が20%と続いております。
高齢化率の高い地域性を反映して、70~90歳代が8割以上を占めています

11 入院患者居住地

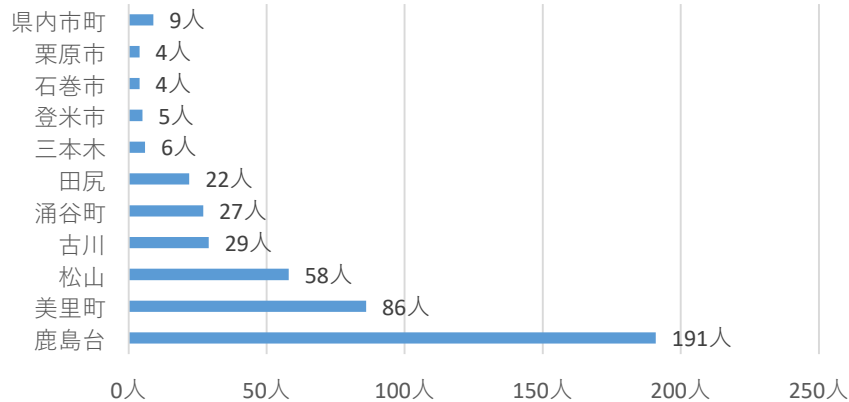
指標の説明

当院に入院された患者さんにおける居住地別の患者数を表しています。

計算式

居住地別入院患者数

居住地別入院患者数（単位：人）



考察

鹿島台地域（近隣地域含）のかかりつけ医の役割を担っているため、鹿島台地域及び近隣地域（松山・田尻・美里町・涌谷町）の方が8割以上を占めています。そのうち4割以上が鹿島台地域の方となっており、地域のかかりつけ医としての役割を十分に果たしているものと考えます。

令和6年度も、継続して地域のかかりつけ医の役割を担ってまいります。

12 入院目的別

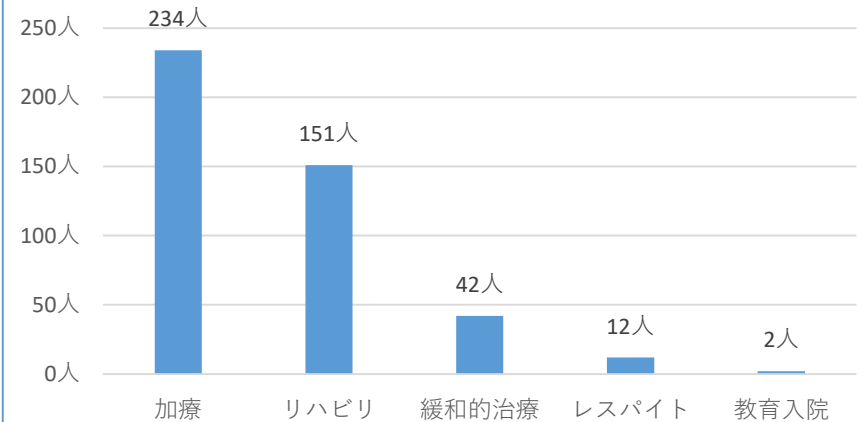
指標の説明

当院に入院された患者さんにおける目的別の患者数を表しています。

計算式

入院目的別の入院患者数

入院目的別（単位：人）



考察

「加療」と「リハビリ」が入院の主な目的となっております。令和6年度も安心して自宅等に退院できるよう十分な「加療」と「リハビリ」を提供してまいります。

13 救急車受入れ件数

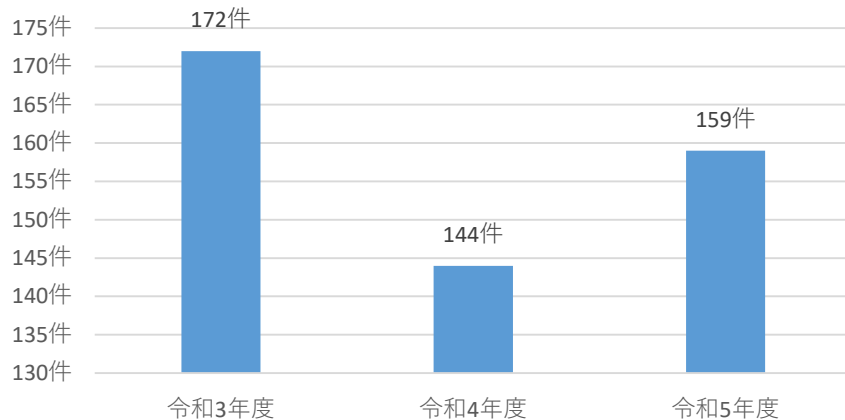
指標の説明

当院に救急搬送された患者数（直接来院含む）を表しています。

計算式

救急搬送の延受入件数

救急車受入れ件数（単位：件）



考察

令和3年度から令和4年度に救急車受入件数は大幅に減少したものの、令和5年度では、前年度実績を上回る結果となっております。

令和6年度からは、医師の働き方改革も踏まえ、これからも地域の安心に繋がるように、日中の救急患者を積極的に受け入れるなど、救急受入体制構築に取り組んでまいります。

14 退院サマリー作成率

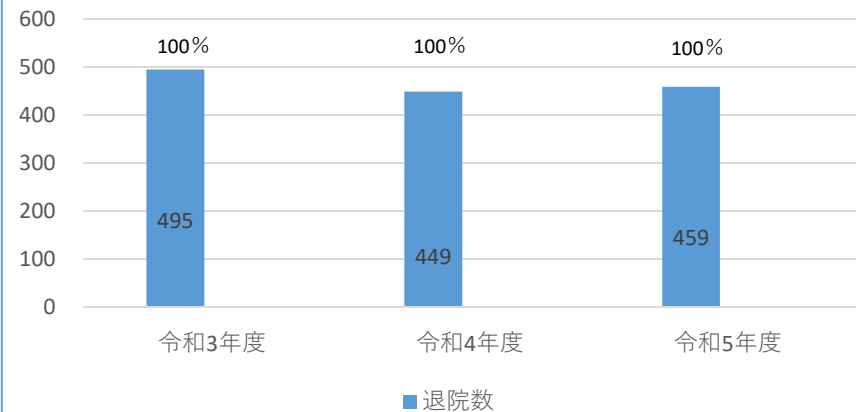
指標の説明

退院サマリーとは、診療記録のひとつで、入院患者さんの入院から退院までの治療内容と経過等を要約し、医師が作成する書類です（英語で要約のことをサマリーといいます）。

計算式

サマリー作成数÷退院数

退院サマリー記載率



考察

退院サマリーを確実かつ早期に作成することは、切れ目ない医師間の連携のためだけではなく、医療の質向上にとっても有益です。そのため当院では、退院してからの経過日数に応じ、医師へ作成を促す対策を講じており、記載率は毎年100%となっております。

令和6年度からは、2週間以内のサマリー作成率も管理していきます。

15 病院満足度

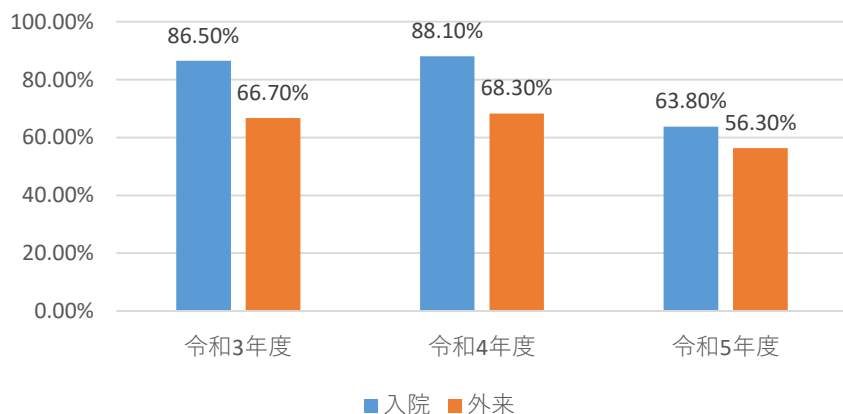
指標の説明

患者や患者家族を対象に施設や設備、受付、会計、医師をはじめとしたスタッフの言葉づかいや態度等、診療全般に対する満足度調査において、その有効回答のうち、「満足」「ほぼ満足」と回答いただいた数の割合を表しています。この調査では、満足度を5段階評価で調査しています。

計算式

入院：「満足」「ほぼ満足」と回答した人数÷有効回答者数
 外来：「満足」「ほぼ満足」と回答した人数÷有効回答者数

患者満足度（単位：％）



考察

コロナ禍の入院対応について感謝のお言葉を多数いただきました。新型コロナウイルス5類移行後も面会制限が続いたことによる不満が令和5年度の低評価につながったと考えます。

また、外来へのご意見のほとんどが待ち時間の長さに関するものでした。令和6年2月から一部予約制を導入しましたが、外来受診者は年々増加傾向にあります。今後は、予約体制を見直すことで待ち時間の短縮を図ってまいります。

16 身体抑制実施率

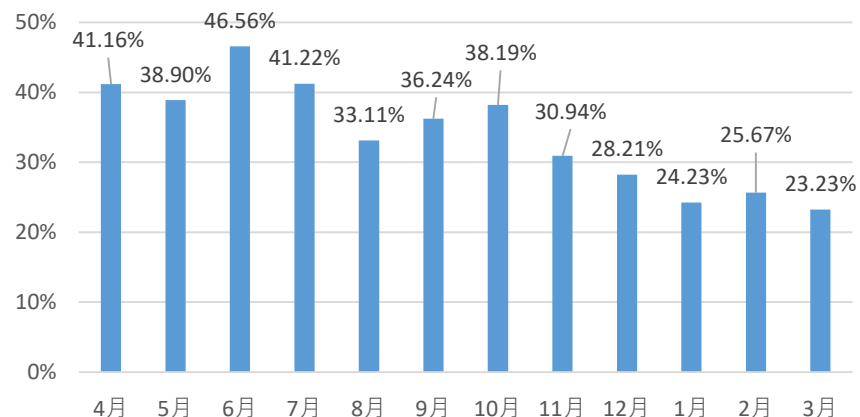
指標の説明

身体抑制は人間の尊厳に係わる重大な問題であることを認識したうえで、安全確保のためにやむを得ない場合の対応です。入院患者延患者数のうち身体抑制を実施した患者延べ数の割合を示します。より低い値が望ましい値になります。

計算式

身体抑制を実施した患者延べ数÷病床入院延べ患者数

身体抑制率（単位：％）



* 同機能病院 実績値 R5年10月～12月 10.89%

考察

当院での抑制には抑制帯、ミトン型手袋、介護衣（つなぎ服）、車椅子安全帯、4点柵が含まれています。認知症患者の割合が多いこともあり、身体抑制率は高値となっています。

現在は、多職種による身体拘束最小化チームの設置により、抑制に対する職員の意識が変化し、抑制率は減少傾向にあります。今後も身体拘束最小化チームを中心に身体抑制の最小化に努めてまいります。

17 転倒転落発生率

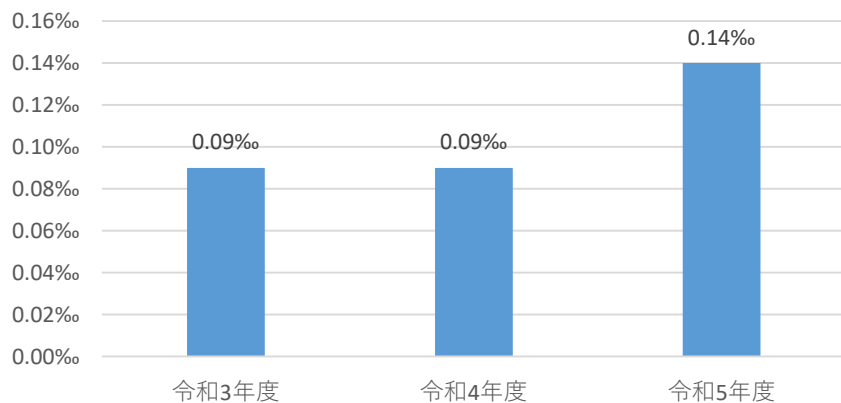
指標の説明

入院患者が転倒・転落した場合の発生の程度を表しています。

計算式

入院患者に発生した転倒転落の件数(レベル1~5の合計) ÷ 入院患者延べ人数 × 1,000(‰)

転倒転落率 (単位: ‰)



考察

入院時から転倒転落の危険度を評価し、患者・家族の協力も得ながら防止対策に努めており、転倒転落発生率は、全国平均(2.82‰)と比較し低値となっています。

今後も継続して転倒転落防止に努めてまいります。

18 褥瘡推定発生率

指標の説明

入院中に新しく褥瘡発生した患者数の割合を評価しています。発生がなければ低い割合となります。

d1: 皮膚が発赤の状態で見え、d2: 皮膚が破綻して真皮までの状態での発見

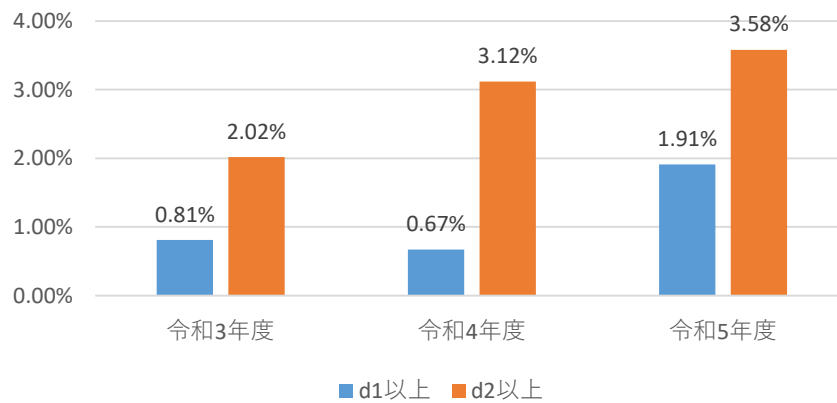
*看護協会DINQLと同様の評価方法

計算式

褥瘡推定発生率: $A \div B \times 100$

A: 1年間で新規の褥瘡を生じた患者数 B: 1年間の病棟の実入院患者数

褥瘡発生率 (単位: ‰)



*全国の平均値 (R4年): 0.05% (d2以上)

考察

超高齢者や終末期患者の入院が多いことや医療器具装着に伴う圧迫などによる褥瘡も少なからず発生しており、褥瘡発生率は増加傾向にあります。しかし、褥瘡対策委員によるラウンドを実施し、多職種協働で褥瘡ケアにあたることで、発生した褥瘡の多くは入院中に治癒しております。

19 栄養指導件数

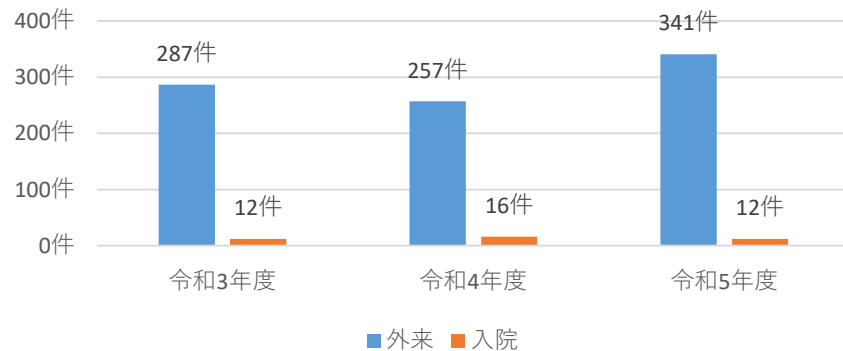
指標の説明

外来受診患者へ栄養指導を実施した件数及び入院患者へ栄養指導を実施した延べ件数を表しています。

計算式

入院指導件数＋外来指導件数の合計
(非算定を含む)

栄養指導件数（単位：件）



考察

令和5年度の個人栄養指導件数(入院・外来)は、前年度と比較してやや減少しましたが、令和5年6月から新型コロナウイルス感染症対策のため中止していた糖尿病集団教室(外来)を再開できたこともあり、総栄養指導件数では前年度を上回る実績となっております。

令和6年度も医師や看護師など多職種と連携を図り、栄養指導が必要な患者さんに適切な介入ができるよう、取り組んでまいります。

20 薬剤管理指導数

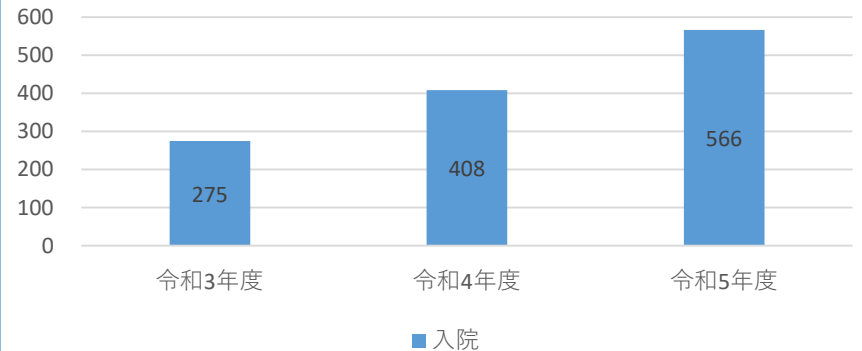
指標の説明

入院患者さんの使用している薬について、患者や家族などに薬剤師が説明を行った件数を表しています。

計算式

薬剤管理件数の合計

服薬指導件数（単位：件）



考察

令和5年度より入退院時の薬剤師による面談及び薬剤指導の介入を開始したことにより、例年よりも薬剤管理指導件数は増加する結果となりました。

令和6年度も継続して薬剤師が介入し、丁寧な説明と指導を心がけ取り組んでまいります。

21 検査件数

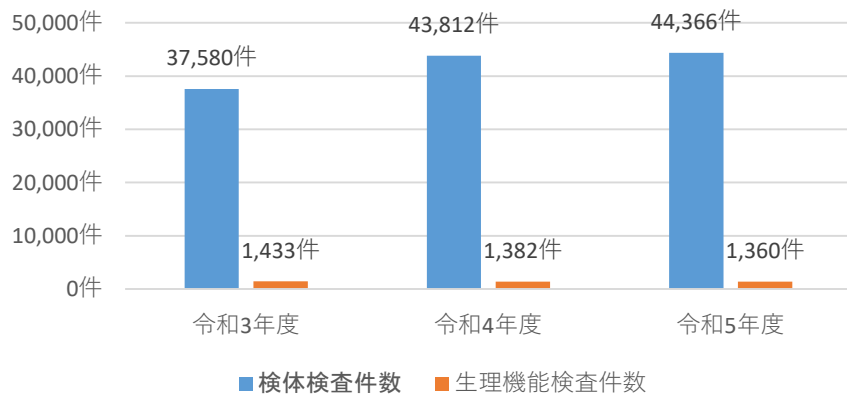
指標の説明

外来及び入院患者に対して検査した件数を表しています。

計算式

検査件数の合計

検査件数（単位：件）



考察

令和5年度の検体検査は、採血やコロナ・インフルエンザ迅速検査の依頼が多く、前年度よりも検査件数は増加しております。また、生理機能検査は入院時心電図検査数の減少やABI検査中止の影響もあり、前年度検査件数よりも減少しております。

今後も検査依頼には、迅速かつ正確に検査結果を提供できるよう継続して業務に取り組んでまいります。

22 放射線撮影件数

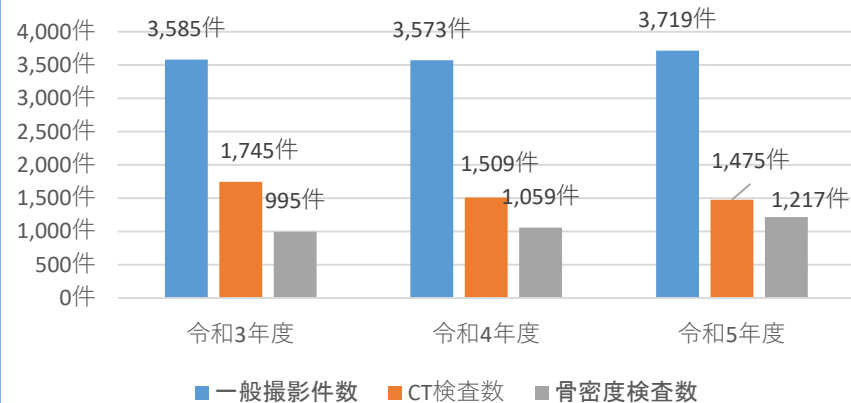
指標の説明

外来及び入院患者に対して撮影した件数を表しています。

計算式

一般撮影・CT撮影・骨密度撮影件数の合計

放射線検査数（単位：件）



考察

令和5年度のCT検査数は前年度比で減少したものの、一般撮影検査及び骨密度検査数は近隣整形外科医療機関の閉院による患者数の増、整形外科応援医師体制の充実による外来患者数の増加に伴い前年度比で増加しております。これにより放射線検査総数の増加に繋がっています。

令和6年度は整形外科応援医師のさらなる充実と、骨密度検査装置更新による検査精度向上により、更なる撮影件数の増加に努めてまいります。

23 入院患者1人1日当たりのリハビリ実施単位数

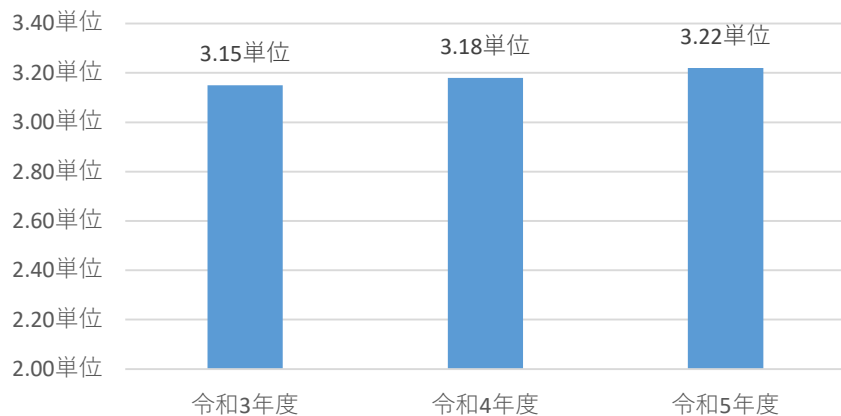
指標の説明

入院患者1人1日当たりのリハビリ実施単位数を表しています。

計算式

入院患者1人1日当たりのリハビリ実施単位数の平均値

提供単位数（単位：実施単位）



考察

1日平均2単位以上を目標として介入したため、段階的な地域包括ケア病床の増床に合わせて、1日当たりの提供単位数は増加傾向となっております。今後も引き続き、より充実したリハビリを提供し、在宅復帰へ向けて支援してまいります。

24 紹介患者数

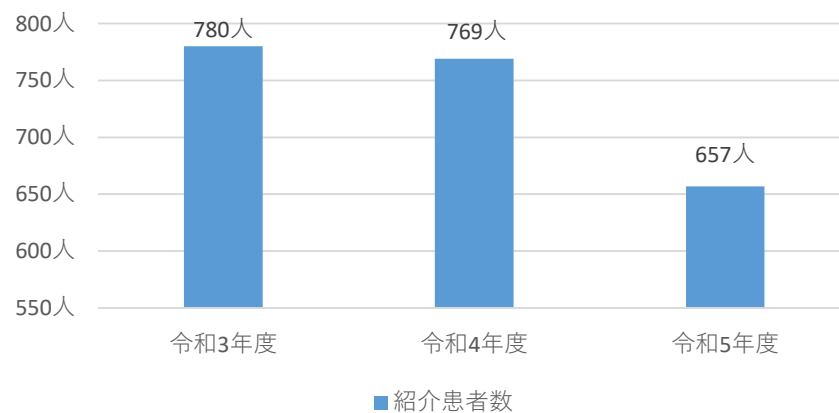
指標の説明

他医療機関から当院に紹介された患者数を表しています。

計算式

紹介患者数の合計

紹介患者数（単位：人）



考察

令和6年2月からケアミックス型病棟の弾力的運用（58床→40床）開始に伴う退院調整により、例年より紹介患者数は減少する結果となりました。また、約5割が本院からの紹介でしたが、近隣医療機関からも多くのご紹介を頂いております。

今後も関係医療機関との連携をより強め、紹介患者数の増加に努めてまいります。

25 レスパイト入院件数

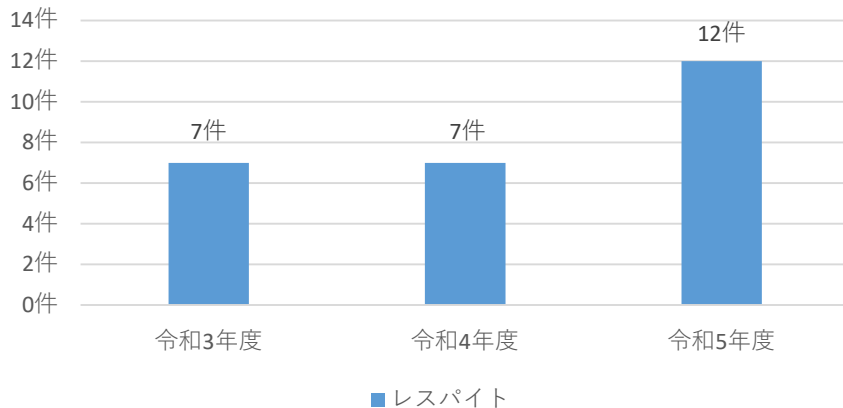
指標の説明

在宅で介護を受けている方やご家族・介護者の休養を目的とした短期入院の件数です。介護者の事情等により一時的に自宅での療養継続が困難となった場合にもご利用いただけます。

計算式

レスパイト入院件数の合計

レスパイト入院件数（単位：件）



考察

R3年度に地域医療連携室が新たに設置され、近隣地域包括支援センター・居宅介護支援事業所等関係機関との連携強化や広報誌・ウェブサイトにおける周知等を実施した結果、レスパイト入院件数は増加傾向となりました。

今後も関係機関や地域住民への周知を徹底し、レスパイト入院の受入れを継続してまいります。

26 訪問診療件数

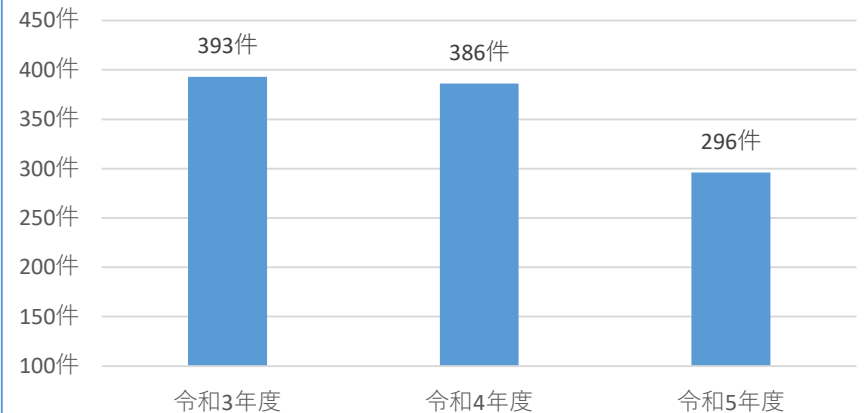
指標の説明

訪問診療の実績件数を表しています。

計算式

訪問診療実施件数の合計

訪問診療件数（単位：件）



考察

令和5年度は、例年よりも訪問診療件数が減少しましたが、これからも地域の在宅における医療ニーズに可能な限りお応えしたいと考えておりますので、令和6年度からは、在宅医療支援室を新たに設置し、住み慣れた自宅で安心して暮らせるよう訪問診療にも力を入れてまいります。

27 訪問看護件数

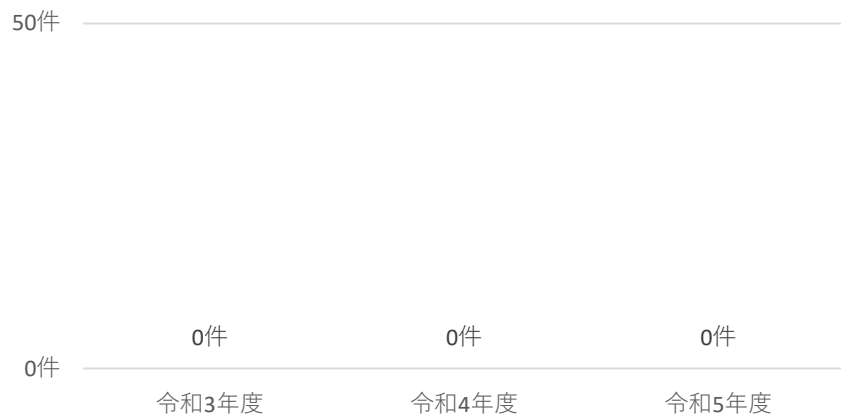
指標の説明

訪問看護の実績件数を表しています。

計算式

訪問看護実施件数の合計

訪問看護件数（単位：件）



考察

令和5年度以前の実績はありませんでした。
令和6年度からは、在宅医療支援室を新たに設置し、住み慣れた自宅で安心して暮らせるよう訪問看護にも力を入れてまいります。

28 訪問リハビリテーション件数

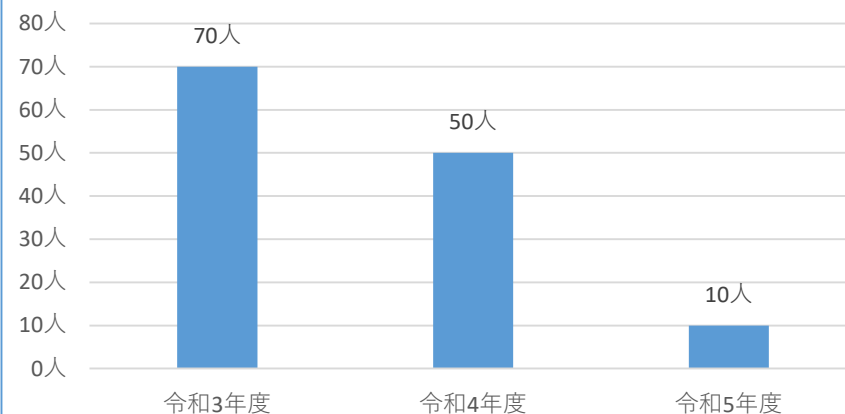
指標の説明

訪問リハビリテーションの実績件数を表しています。

計算式

訪問リハビリテーション実施件数の合計

訪問リハ件数（単位：人）



考察

退院支援として、退院後もリハビリテーションが必要となった方には、訪問リハビリテーションで継続したリハビリテーションを提供しております。しかし、必要なリハビリテーションを入院期間中に完了した上で退院していただくため、訪問リハビリテーションの実績は減少傾向となっております。

今後も退院支援として、退院後のリハビリテーションが必要な方には、積極的にリハビリテーションの提供をしてまいります。